

文学の葉

第21号

2017年3月31日発行

Kitakyushu Literature Museum News

『北九州の文学』の刊行

館長 今川 英子

文学館開館一〇周年を記念して、『北九州の文学』を刊行しました。

開館記念特別企画展は、丁度、生誕一〇〇年を迎えた火野葦平・岩下俊作・劉寒吉を記念した三人展でした。それから一〇年の間に開催した北九州ゆかりの作家や文芸活動についての特別企画展では、関連資料を収集・調査・研究を行った結果を図録にまとめましたが、それをより分かりやすく再構成して掲載しています。取り上げた作家は、三人の他に、森鷗外、伊馬春部、横山白虹、橋本多佳子、杉田久女、林芙美子、宗左近（掲載順）、児童文学の阿南哲朗やみずかみかずよ、そして北九州市内の企業が刊行していた職場雑誌です。

そのほか圧巻は、現在活躍中のゆかりの作家の方々三八名を紹介し、それぞれ北九州への思いをご寄稿いただいていることです。本や雑誌、新聞、テレビなど表の顔だけで知っていた作家が、ふるさと北九州にこんな想いを抱いていたのか、こんな想い出があったのかとその素顔が垣間見えて、急に近しい親しみが感じられる存在として迫ってきます。

この一冊で自ずと北九州の近・現代文学の全貌と歴史が俯瞰でき、北九州文学事典としてもご利用いただけます。北九州が豊かな文芸土壌に恵まれ、現在も多くのゆかりの作家の方々が様々な分野で活躍していることに驚くと同時に、誇らしく思われることでしょう。是非、お手にとってご覧ください。

さて、一一年目、最初の夏の展覧会は、二〇一四年に児童文学のノーベル賞と言われる「国際アンデルセン賞」を受賞した作家・上橋

菜穂子さんとその代表作「精霊の守り人」シリーズの紹介です。この賞は、これまでケストナーやトーベ・ヤンソンなど世界的に著名な作家たちが受賞し、日本人としては、まど・みちおに次いで二人目、二〇年ぶりの快挙でした。受賞理由は「自然への敬愛が感じられること」「多様な価値観のもとで生きる複雑な世界が描かれている」ことです。上橋さんは実は文化人類学の研究者でもあり、大学では宮古島（沖縄県）や青ヶ島（伊豆諸島）で、大学院に進んでからは調査先を海外に広げ、オーストラリアの先住民アボリジニを九年にわたってフィールドワークしています。そこでの体験に裏打ちされた物語世界には、神話的世界観がダイナミックに映し出され、国家や部族の権力抗争を取り込みながら、精霊と神、夢と現実、人と動物の間を自在に往還します。宇宙は、「森羅万象のなかでつながりあり」「卓越した想像力」による「作品には自然と生き物すべてに対するやさしさと畏敬の念が溢れてい」（受賞理由）る、その融和と共存を求める世界は、対立と混迷を極める現実世界を逆照射してくれます。

ところで、パソコンで原稿執筆される上橋さんには自筆資料などはなく、展覧会会場ではこれまでの展示方法とは異なり、インスタレーションなどを駆使した新しい手法が展開されますのでどうぞご期待ください。

最後に上橋さんの言葉をご紹介します。

——もしかしたら人にとって一番大切なことは、自分が知っている世界がすべてではないと感じることじゃないかという気がするのです——

目次

○ 『北九州の文学』の刊行	1	○ 共同展示 北九州と3.11、そして熊本地震	
○ 開館10周年記念事業 没後20年 司馬遼太郎展	2	○ 第3回 林芙美子文学賞表彰式および記念講演	6
○ 開会記念講演会、徳永至さん講演会	3	○ 第7回 「あなたにいたくて生まれてきた詩」コンクール表彰式	
○ 葉室麟さんトークライブ、バースデーコンサート		○ 九州芸術祭文学賞表彰式・記念講演	
○ フンガク・カフェ		○ 第8回 子どもノンフィクション文学賞表彰式	7
○ 森鷗外書簡の記念展示		○ 文学館セミナー、ロビー展	
○ 檜山荘模型の贈呈式		○ 句画集 杉田久女 一〇一句展	
○ 開館10周年記念講演会・対談	4	○ 第39回 光草書道展「シェイクスピアを書く」	
○ 火野葦平資料館展示リニューアル		○ 平成28年度下半期に行われた文学者を偲ぶ会、お祝い	
○ 10周年記念誌の刊行		○ 平成29年度企画展予告、文学館文庫刊行	8
○ 企画展 「落椿—杉田久女・橋本多佳子—展」	5	○ 寄贈者・提供者、提供雑誌	

開館10周年記念事業

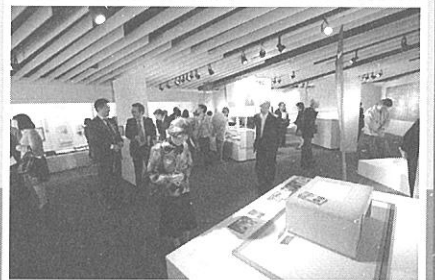
北九州市立文学館開館10周年記念 第23回特別企画展



没後20年 司馬遼太郎展 「21世紀“未来の街角”で」

2016.10/22(土) 12/4(日)
 本に
 司馬さん
 にあう。
 本に
 にあう。

北九州市立文学館



北九州市立文学館は、
 昨年11月1日に開館10
 周年を迎えました。
 これを記念し、特別
 企画展や記念講演会の
 開催、火野葦平資料館
 の展示リニューアルな
 ど様々な事業を実施し
 ました。
 また、文学館の10年
 間の歩みをまとめた記
 念誌を刊行しました。

昨春秋は、開館10周年記念、第23回特別企画展として「没後20年 司馬遼太郎展―21世紀“未来の街角”で」を開催しました。

『梟の城』で第42回直木賞を受賞した司馬遼太郎は、戦国、幕末、明治の時代を描いた傑作を数多く執筆しました。また小説とともに『街道をゆく』この国のかたち』などのエッセイで、日本の祖形、日本人とは何かを考えつつ、文化・文明論を展開しました。今日もなお、司馬作品は多くの読者に読み継がれています。

本展覧会では導入として、産経新聞に1335回連載された「竜馬がゆく」の紙面の全てを貼り付けたトンネルから始まりました。

始めの《16世紀の街角》では、司馬作品の内、戦国時代のものを取り上げました。斎藤道三と織田信長を描いた『国盗り物語』や、黒田官兵衛の生涯を描いた『播磨灘物語』などを紹介し、『播磨灘物語』の自筆原稿や、掲載誌のほか、描かれた時代の歴史資料なども併せて展示。またコラムとして、司馬が記者時代に、西本願寺の宗教記者クラブでよく寝ていたソファと、直木賞受賞のころに使っていた文机も展示しました。

続いて《19世紀の街角》では幕末明治期を描いた作品を紹介。坂本竜馬を描いた『竜馬がゆく』、そして秋山好古、真之兄弟と正岡子規の友情を軸に

明治という時代をとらえた『坂の上の雲』などの作品を取り上げました。このコーナーでは初公開となる「竜馬がゆく 立志編」のあとがき原稿や、また、「坂の上の雲」の自筆原稿、秋山好古の行李や、真之の帽子などを展示しました。

最後の《21世紀の街角》では、日本、日本人論であり文明批評の「この国のかたち」、身辺のことを書いたエッセイ「風塵抄」、そしてライフワークとなった「街道をゆく」を取り上げました。そして最後に、小学校6年生の教科書用に書き下ろされた『二十一世紀に生きる君たちへ』の自筆原稿10枚すべてを展示しました。

司馬遼太郎の、「いま」から未来への眼差しを感じていただける展覧会となりました。

展示資料 約100点

アンケート

・ 展示の方法はわかりやすく、また、司馬先生への愛情が感じられるすばらしい創り方だった。司馬先生からのメッセージを多くの若者に観て欲しいと思った。
 (40代・女性)

・ 21世紀の指針にすべき司馬氏の心が伝わってきました。「他者を(他文化)理解するところから世界は始まる」という考えはすべてに通じると思います。
 (50代・男性)

開会記念講演会

平成28年10月22日

司馬遼太郎展の開会を記念して、司馬遼太郎記念館館長で、司馬遼太郎の義弟でいらっしゃる上村洋行さんによる講演会を行いました。

一緒にお住まいになっていた時のお話や、司馬遼太郎が作家を志した経緯など、作家の実像が浮び上がるエピソードをお話いただき、また、「竜馬がゆく」のゲラ刷りを違う部局の人が競うように奪って読んでいた様子など、作品の面白さが強く伝わるお話をいただき、司馬遼太郎の魅力を一層感じられる、御講演となりました。

司馬遼太郎の身近におられ、その人となりをご存じだからこそ、一人の人間として、そして作家としての司馬遼太郎が感じられるお話でした。



上村洋行さん

徳永至さん講演会

平成28年11月12日

司馬遼太郎『街道をゆく』をモチーフに制作されたKBCテレビ「九州街道ものがたり」の初代ディレクターの徳永至さんに御講演をいただきました。

司馬さんご縁の深かった社長から、突然に持ちかけられた立ち上げの話、第一回目が出来上がる過程など、制作に深く関わられたご経験に基づいた制作秘話をお話いただきました。



徳永至さん

葉室麟さんトークライブ (聞き手：文学館館長・今川英子)

平成28年11月24日

司馬遼太郎を敬愛する作家の一人として挙げられる直木賞作家・葉室麟さんにお話をいただきました

坂本龍馬はじめ、イデオロギーに囚われない時代・歴史を動かした人物の描き方に司馬作品の魅力の一つがあると語られ、また、「いきた歴史は、言葉の中にある」と話されました。

同じ作家としてのお立場から司馬作品の読み方、魅力についてお話をいただき、作品への新しい視角を得られるお話となりました。



葉室麟さん

10周年記念事業

バースデーコンサート

平成28年11月1日

開館10周年を記念して、交流ステージで室内楽のコンサートが行われました。

北九州ゆ

かりの文学者や開催中の司馬遼太郎展にちなんだ曲などが演奏されました。



右から、加来洋子さん (Vn.)、関原弘二さん (Vc.)、宮崎由紀子さん (E.Pf)

ブンガク・カフェ 「北九州の食とブンガク」

平成28年11月1日 図書館カフェテリア

(聞き手：学芸員・小野恵)

作家の福澤徹三さんによるトークイベントを開催しました。



福澤徹三さん

北九州の郷土料理「糠みそ炊き、焼きうどんなど」の魅力、森鷗外や林芙美子らゆかりの作家の食にまつわるエピソードを紹介されました。ご自身の作家活動については、何が書きたいかより、常に「読者」を意識して書いていると話されました。

最後に、ドラマ化された小説『俵飯』の料理を参加者皆で味わいました。

森鷗外書簡の記念展示

平成28年11月1日～3日

文学館の収蔵資料から、森鷗外より洪江保宛て書簡(1916年1月19日付)を展示しました。



檜山荘模型の贈呈式

平成28年11月11日

ゆかりの俳人・橋本多佳子の四女である橋本美代子さんより、橋本家の旧宅「檜山荘」の模型が寄贈されました。檜山荘は1920年、大阪の実業家・橋本豊次郎と妻・多佳子の新居として現在の小倉北区中井浜に建てられました。瀟洒な邸宅は当時の北九州で文化サロンとしての役割も担いました。模型は100分の1サイズで、庭や海からの勾配も表現しています。檜山荘跡地は現在、檜山荘公園として整備されています。



北橋市長と橋本美代子さん

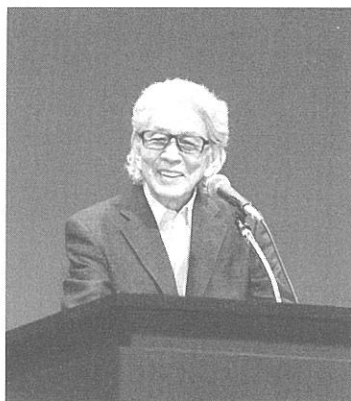
開館10周年記念

講演会・対談

平成29年11月3日

北九州市立文学館開館10周年を記念して、五木寛之さんの講演会と、リリー・フランキーさん、山崎ナオコーラさんの対談が、北九州芸術劇場中劇場で開催されました。

五木さんの講演会は午後1時半より開演。「いまを生きる力」と題し、未来を考えると同様に後ろをふり返って過去を慈しむことの大切さを説きました。悲哀や憂いを表す各国の言葉や音楽を切り口にしたお話は、西田幾多郎や蓮如が遺した言葉にも及び、時にユーモアを交えた語り口に、来場者の皆さんは聴き入っていました。



五木寛之さん

講演会終了後、午後7時よりリリー・フランキーさんと山崎ナオコーラさんの対談が行われました。(進行は今川英子文学館長)

作家、イラストレーター、俳優、司

会者と幅広い分野で活躍中のリリー・フランキーさんと、最近作「美しい距離」が五回目の芥川賞候補となった山崎ナオコーラさんは、実はこの日が初

対面でしたが、それを感じさせない軽妙なやり取りに、会場は沸きました。

お二人の話は、北九州との関わりや子ども時代の読書体験、また「東京タワー」や「美しい距離」の創作、また死生観など多岐に渡り、他では聴くことのできない対談となりました。

当日は、講演会・対談とも満席となり、講演会後は五木寛之さんから著書のプレゼント、また対談後は山崎ナオコーラさんのサイン会なども行われ、延べ千四百人の来場者の皆さんにとつて、文化の日に相応しい有意義な体験となりました。



今川館長、リリー・フランキーさん、山崎ナオコーラさん

火野葦平資料館

展示リニューアル

平成29年3月25日より

若松市民会館内の火野葦平資料館の展示をリニューアルしました。

昭和60年に開館した火野葦平資料館は開館より32年、若松の地で郷土ゆかりの作家・火野葦平を顕彰する施設として親しまれてきました。

その間、補修や手直しは行われてきましたが、この度、展示全体を入れ替えることになりました。

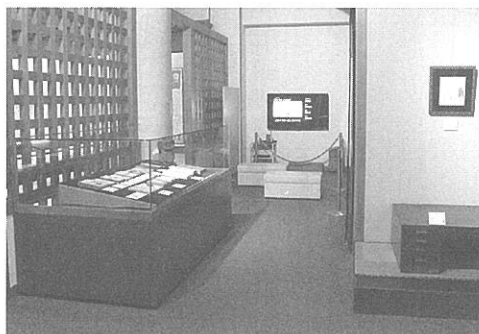
新たな展示の特徴として、資料保護の観点から、戦場の様子を詳細に記した「従軍手帳」や、戦前、戦中の書簡など、貴重資料8点のレプリカを作成・展示を行い、常設展示としての強度を高めました。解説パネル等も一新し、より火野葦平の全体像を捉え易いものとなりました。

また、河童を愛した葦平が描いた色紙「河童沈思」をメインビジュアルに据え、パネルやキャプションにデザインしました。可愛らしくも物憂げな河童が、これから資料館の新たな顔として愛されることを願います。

最も大きな変更は、映像機器の導入です。葦平の没後50年を記念して制作された、「若松偉人伝〜火野葦平の足跡を訪ねて〜」を上映します。映像でご覧いただくことで、より火野葦平を解りやすく、身近に感じていただける

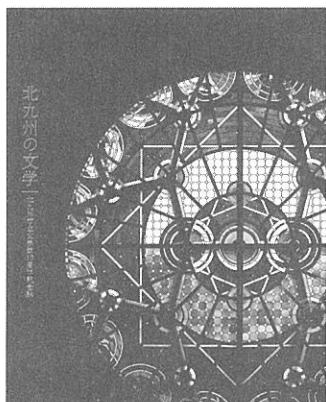
と思います。

若松にお越しの際には、リニューアルした葦平資料館をぜひともご覧ください。



『北九州の文学 北九州市立文学館10周年記念誌』の刊行

全250ページ、オールカラー。ゆかりの文学者案内にもなっています。定価1000円。文学館のほか、ブックセンタークレスト小倉本店(093-522-3914)でも販売しています。



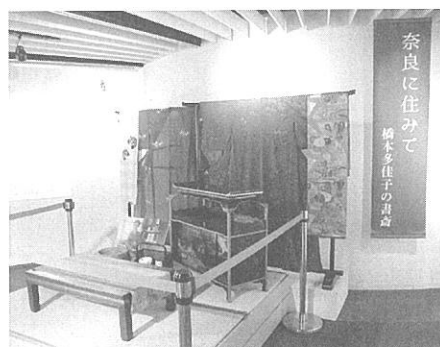
企画展
「落椿―杉田久女・橋本多佳子―展」

平成29年3月1日～4月9日

「全国俳句大会in北九州」久女を育み、多佳子を生んだ俳句の地の開催に合わせ、ゆかりの俳人杉田久女と橋本多佳子の企画展を開催しました。

二人は1922年3月、小倉中原にあった橋本家の邸宅「櫓山荘」で開かれた高浜虚子歓迎句会で出会いました。この日の席題は「潮干」と「落椿」。虚子が即興で詠んだ落椿の句に感銘を受けた多佳子は、これをきっかけに久女から俳句の手ほどきを受けるようになります。

杉田久女は、高浜虚子が女性俳人の門戸を開いた〈台所雑詠〉でデビューし、女性俳句の草分けとして知られます。



橋本多佳子の遺愛品

す。その久女から教えを受けた橋本多佳子は、のち山口誓子に師事し、戦後の俳壇で華やかに活躍しました。代表的な女性俳人の4人（星野立子、中村汀女、橋本多佳子、三橋鷹女）にも数えられます。

本展では、多くの自筆資料から、二人の豊かな作品世界を紹介しています。それぞれの美意識がうかがえる遺愛品の展示も見どころです。

展示資料 約100点

アンケート

・俳句をしている者にとって感慨深い展示でした。句稿や句帳など久女さん多佳子さんのお二人の息吹に触れた思いです。(60代女性)

・資料がきれいに保存されていて、当時のお二人の生きざまが浮かんできました。感激しました。(60代女性)

・時間を忘れ、十分に観させて頂きました。感激!(70代男性)

全国文学館協議会2016年度共同
展示「3・11文学館からのメッセージ」
北九州と3・11、そして熊本地震

平成29年3月1日～31日



東日本大震災の記憶の風化を防ぎ、「いま」「そこ」にある問題として再考することを願い開催しました。

未曾有の大災害を、文学者たちは様々な形で表現してきました。震災後に書かれた文学作品などを、ゆかりの作家の作品も含め約120冊展示しました。

また、北九州市危機管理室の協力で、これまでの釜石市での支援活動の様子に加え、昨年4月に発生した熊本地震での支援や復興状況などを写真パネルで紹介しました。

アンケート

・地震災害を自分のこととして再考するよい機会でした。支援の北九州市職員の皆様にも頭が下がります。(60代女性)

・忘れないことの大切さを感じました。熊本城など少しでも早く元通りになってほしいと願っています。(30代女性)

講演会「釜石の今～復興はどのまで進んでいるか～」平成29年3月4日
講師・佐々木勝さん

(釜石市復興推進本部事務局長)



佐々木勝さん

東日本大震災後、北九州市が継続して支援を行っている釜石市から講師をお招きし、現在の復興状況や今後の課題をお話いただきました。始めに、多重防災を軸にした土地利用の方法や避難のしくみ作り、子供たちへの防災教育など、被災体験に基づいた街づくりの具体例を紹介されました。また、2019年のラグビーワールドカップを見据えた民泊マッチングサービスの提供、岩手大学釜石キャンパスの誘致など新たな取り組みも積極的に行われています。北九州市と同様、外から人が集まって発展してきた「製鉄の街」の特徴を生かし、「開かれた街づくり」を進めていきたいと話されました。

一方、未だ多くの住民が仮設住宅で生活するなど「復興は道半ば」です。佐々木さんは、現在の状況を「見えなかったゴールがやっとかなたに見えてきた」と例え、支援への感謝と、引き続きの協力を来場者に呼びかけられました。

第3回 林芙美子文学賞表彰式および記念講演

平成29年2月26日

第3回林芙美子文学賞の表彰式が、リーガロイヤルホテル小倉で開催されました。

全国から寄せられた628編の応募作品の中から、秋田県秋田市在住の工藤千尋（くどう ちひろ）さんの「とせね、かちやくちやね」が大賞に選ばれ、佳作には東京都在住の、なかにしさとみさんの「深く、」が選ばれました。

表彰式には最終選考委員である井上荒野さん、角田光代さん、川上未映子さんも出席されたほか、文学館関係者、地元関係者など多数の方が出席されました。

大賞受賞の工藤さんは「その年齢、その時代でしか残されない物語があり、今後も、悩みながら、身の丈にあった作品を作り続けていこうと思う」と決意を語りました。

また、佳作受賞の、なかにしさんは、「肉体を取り戻す修行のようなことを書かなければと思った。その先で、皆様や、北九州という街と出合った事にとっても感謝している」と喜びの言葉を述べました。

選考委員の先生方は講評で、受賞作について、「ものすごいポテンシャルを感じた」「世界観がはつきりしていた」と語り、是非、次の作品を読んで

みたいと、受賞者のお二人に大きな期待を寄せていました。

表彰式後、共催・朝日新聞社、朝日新聞出版により、選考委員の井上荒野さんによる記念講演が行われました。

講演では、『小説トリッパー』に連載中の作品「あちらにいる鬼」のモデルとなっている井上さんの父で作家の井上光晴さんと母、そして瀬戸内寂聴さんとの関係について語られました。約三百名の来場者は、井上さんが初めて明かす創作の秘話に聴き入り、予定になかった質疑応答の時間も設けられるなど、大変充実した時間を過ごしました。



工藤千尋さん



なかにしさとみさん



表彰式講評

左から、今川館長、井上荒野さん、角田光代さん、川上未映子さん

第7回「あなたにいたくて生まれてきた詩」コンクール表彰式

平成28年12月10日

北九州市立文学館では、北九州市出身の詩人 宗左近、みずかみかずよを顕彰するとともに、子どもの豊かな表現力を伸ばすことを目的に、「あなたにいたくて生まれてきた詩」コンクールを実施しています。今年度は、市内外から973作品もの応募がありました。表彰式は文学館交流ステージで行われ、最終選考委員の平出隆さんによる講評や、最優秀賞受賞者による詩の朗読が行われました。

受賞者 小学校の部（敬称略）

宗左近賞Ⅱ石本光歌子（佐世保市立清水）、みずかみかずよ賞Ⅱ金子陽菜（北九州市立中井）、北九州市長賞Ⅱ渕本泰地（宗像市立自由ヶ丘）、北九州市教育長賞Ⅱ荒木蒼太（北九州市立若松中央）、北九州市立文学館長賞Ⅱ西村虎哲（北九州市立牧山）、学校賞Ⅱ北九州市立牧山小学校、北九州市立若松中央小学校



九州芸術祭文学賞 表彰式・記念講演

平成29年3月11日（土）

第47回九州芸術祭文学賞の表彰式と記念講演が小倉井筒屋新館パステルホールで行われました。

平成23年度から九州・沖縄の各都市で巡回開催されており、北九州市での開催は初めてです。

今回は、尾形牛馬さん（熊本市）の『酒のかなたへ』が最優秀作に選ばれました。表彰式に続き、政治学者・姜尚中さんによる講演会「漱石のことは（夏目漱石の言葉が僕の癒しだった）」が開催されました。



姜尚中さん

第8回子どもノンフィクション文学賞表彰式

平成29年3月19日

今年度で第8回を迎える子どもノンフィクション文学賞の表彰式を行いました。

今年度は国内外から小中学生あわせて1202作品の応募があり、その中から小学生の部⇨夏井来良さん(LCA国際小学校)の「海の生きものさん」、長生さしてね」、中学生の部⇨峰岡拓真さん(福岡教育大学附属福岡中学校)の「僕」の名前」が大賞作品に選ばれました。また、学校賞にはLCA国際小学校、北九州市立小石小学校、大阪教育大学附属池田中学校、長野県大町市立第一中学校、福岡教育大学附属福岡中学校、文化学園大学杉並中学校が選ばれました。

文学館交流ステージで行われた表彰式では、大賞2名のほかに、佳作3名、選考委員特別賞6名と学校団体賞6校に賞が贈られました。表彰式に出席した受賞者たちは、北橋市長や選考委員、垣迫教育長から楯と副賞を贈られ、大変うれしそうに受け取っていました。

表彰楯と副賞授与の後、選考委員の皆様からご講評いただきました。今年度は作品数が多く、また、レベルも高く、選考委員の皆様方は、選考にとっても苦労したとおっしゃっていました。

表彰式終了後は、北九州市内で活動するひびき少年少女合唱団によるミニコンサートを開催しました。

文学館に響きわたる美しい歌声に、受賞者の皆さんは熱心に聞き入っていました。



文学館セミナー

平成28年度後期 平成28年10月～平成29年3月

○書く⇨講師・後藤みな子さん(作家、北九州文学協会理事長)：原稿用紙4枚程度のエッセイを発表し講師のアドバイスを受けた。参加13名

○知る⇨講師・渡瀬淳子さん(北九州市立大学准教授)：「徒然草」を題材にくずし字の基礎演習を行った。参加20名

平成29年度前期 平成29年4月～6月

○書く⇨後藤みな子さんの文章講座 隔週水曜日、13時30分～15時。全6回、定員15名。

ロビー展

◆第12回檜山荘子ども俳句大会

11月1日～12月28日
大賞を受賞した内浦小学校6年廣渡蜜花さんの作品など115作品を展示しました。

◆第10回北九州文学賞・第7回北九州芸術祭ジュニア部門川柳優秀作品展

1月11日～2月26日
北九州文学協会文学賞特選を受賞した真島美智子さんの作品など50作品を展示しました。

北九州芸術祭ジュニア部門北九州市長賞を受賞した熊西中学校2年井本美羽さん、熊西小学校3年小松幸路さん、福岡教育大学付属小倉中3年溝上裕己さんの作品など50作品を展示しました。

句画集 杉田久女 一〇二句展

12月10日(土)～12月28日(水)
杉田久女没後70年に合わせ、北九州デイスカバリーの会が刊行した『句画集 杉田久女一〇二句』(画・西川幸夫 鑑賞坂本宮尾)の展覧会が開催され、原画やパネルが展示されました。

第39回 光草書道展

「シエイクスピアを書く」

平成29年1月7日～15日
小倉南区で活動する光草書道展の作品展が開催されました。日本でも有名なシエイクスピア作品の台詞などを、英

文も交えた書で表現しました。会期中は、アダム・ヘイルズさん(北九州市立大学准教授)による特別講話も行われました。



マクベス(第五幕第五場) 橋村雅榮(淑子)

平成28年度下半期に行われた文学者を偲ぶ会

- ・第21回杉田久女忌(1月21日) 小倉北区・圓通寺
- ・第57回葦平忌(1月22日) 高塔山・火野葦平文学碑前
- ・岩下俊作忌(1月30日) 高炉台公園・岩下俊作文学碑前
- ・第55回森鷗外を偲ぶ会(3月26日) 紫川沿い・森鷗外文学碑前

【お祝い】

- ・井上荒野さん(作家・林芙美子文学賞選考委員)が第29回柴田鍊三郎賞を受賞されました。
 - ・葉室麟さん(作家・小倉北区出身)が第20回司馬遼太郎賞を受賞されました。
 - ・寺井谷子さん(俳誌「自鳴鐘」主宰)が第16回山本健吉賞を受賞されました。
 - ・山崎ナオコラさん(作家・小倉北区出身)が第23回島清恋愛文学賞を受賞されました。
- 心よりお祝いを申し上げます。

第24回 特別企画展予告

上橋菜穂子と
〈精霊の守り人〉展

平成29年7月22日(土)～9月3日(日)



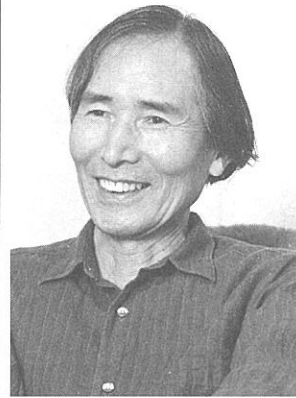
国際アンデルセン賞を受賞した作家・上橋菜穂子さんとその代表作「精霊の守り人」シリーズをご紹介します！
綾瀬はるかさん主演のNHKドラマ関連資料も展示します！！

第25回 特別企画展予告

生誕 90 年
藤沢周平展
(仮題)

平成29年10月28日(土)
～平成29年12月10日(日)

主催：北九州市立文学館
没後20年記念展実行委員会
監修：鈴木文彦 遠藤崇寿 藤沢周平事務所



藤沢周平 (写真提供：文藝春秋)

文学館文庫別冊

「杉田久女頌」刊行

没後70年を偲び、ゆかりの俳人杉田久女の作品集を刊行しました。俳句に加え、小倉での暮らしを記した随筆など散文19編を収録。北九州市出身の詩人・高橋睦郎さんほか、豪華な執筆者7名の杉田久女論も収めます。

文学館とブック

センタークエスト

小倉本店で販売

しています。



定価 1000 円

■寄贈者・提供者

Mori-Ogata-Gedenkstätte der Humboldt-Universität, TOTO株式会社、青山茂之、阿木津英、秋吉久紀夫、麻生壽々代、荒川区、有馬記念館保存会、粟谷さやか、市川市水木洋子市民サポーターの会、市川市文学ミュージアム、伊藤比呂美、岩岡中正、いよやよい、上田薫、大貝晃章、大島博光記念館、岡田功、岡山シテイミュージアム、奥田稜一、大佛次郎記念館、おだじろう、オリナビ編集委員会、かごしま近代文学館、メルヘン館、柏木恵美子、かすがい市民文化財団、神奈川近代文学館、鎌倉文学館、唐津市、川上和繁、かんもん北九州ファンクラブ、北九州市立大学文学部、北九州市立美術館、北九州中小企業団体連合会、北九州デイスカバリーの会、北橋健治、木村和也、九州文化協会、黒岩淳、現代俳句協会、こおりやま文学の森資料館、兒玉充代、後藤崇、小林三郎、近藤洋太、さいたま文学館、堺市立文化館、与謝野晶子文芸館、坂口博、坂本宮尾、佐々木基一全集刊行会、薩摩川内市内まごころ文学館、産経新聞社、椎窓猛、事業構想大学院大学、司馬遼太郎記念館、白根友吉、新俳句人連盟、杉山恵一、清張の会、世田谷文学館、全国文学館協議会、仙台文学館、節のふるさと文化づくり協議会、武田邦彦、田島安江、田之上征男、丹青社、調布市武者小路実篤記念館、鶴岡市立藤沢周平記念館、東京都江戸東京博物館、童心社、徳島県立文学書道館、中井保江、永田博夫、中原中也記念館、那須田康之、西日本文化協会、西川幸夫、日本近代文学館、日本現代詩歌文学館、日本文藝家協会、野田宇太郎文学資料館、梅光学院大学生涯学習推進室、波佐間義之、服部たか子、原阿佐緒記念館、久野禮子、姫路文学館、廣澤洋子・元彦、広

■提供雑誌

島市現代美術館、廣田昭子、福岡県詩人会、福岡市総合図書館、福澤徹三、ふけとしこ、藤江梓、古谷龍太郎、文化力の旅社会遺産学芸員協会、文京区立森鷗外記念館、へいわの灯火舎、ベルリン森鷗外記念図書館、北海道立文学館、前橋文学館、増田連、町田市民文学館ことばらんど、松本清張記念館、松山市立子規記念博物館、南川隆雄、峰崎成規、みやこ町歴史民俗博物館、森田朋子、柳生じゅん子、安水稔和、山内克士、山田美壽、藤橋市歴史資料館、龍秀美、渡辺玄英

2017年3月31日 発行
北九州市立文学館

〒803-0813
北九州市小倉北区城内4-1
TEL 093-571-1505
<http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/>

■開館時間
9:30～18:00 (入館は17:30まで)
■休館日
毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)
年末年始